第64回日本化学療法学会総会
教育（ランチョン）セミナー11

日時 2016年6月11日(土)12:20～13:10

会場 第3会場（神戸国際会議場 4F 401+402）

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1
TEL：078-302-5200

非定型肺炎を再考する
ー呼吸器感染症診療の進歩と変貌ー

座長 堀　誠治 先生
東京慈恵会医科大学 感染制御科 教授

演者 宮下 修行 先生
川崎医科大学 総合内科学1教室 准教授

教育（ランチョン）セミナーは整理券制となります。
●教育（ランチョン）セミナー整理券配布場所：神戸国際会議場 3F ホワイエ
●配布時間：各日8:00～11:00
セミナー開始5分後に整理券は無効となります。

共催：第64回日本化学療法学会総会／旭化成ファーマ株式会社

非定型肺炎を再考する－呼吸器感染症診療の進歩と変貌－

演者 宮下修行 先生 川崎医科大学 総合内科学1教室 准教授

呼吸器感染症は日常診療でしばしば遭遇する、頻度の高い感染症である。毎年全世界で約500万人が肺炎で死亡し、わが国の死因順位の第3位に位置している。このように罹患率、死亡率ともに高い重要な疾患であるにもかかわらず、原因菌、治療を受ける場所、治療を行う医師、治療薬が多彩であるため、治療法がまちまちであると指摘されていた。そのような背景のもと、欧米各国では1990年代に相次いで肺炎診療のためのガイドラインが作成された。わが国においても、2000年に日本呼吸器学会から「成人市中肺炎診療の基本的考え方」と題する診療指針が公表されたが、エビデンスの乏しさからガイドラインとは呼称されなかった。しかし、本指針の普及を機に、わが国での呼吸器感染症に関する関心が高まり、エビデンスが蓄積され、欧米とは大きく異なった実態が明らかとなった。このため、初版から進化、変貌した改訂ガイドラインが2005年と2008年に公表され、さらに、わが国の高齢者肺炎を反映した「医療・介護関連肺炎診療ガイドライン」が作成された。

呼吸器感染症診療に関する指針（ガイドライン）公表から16年が経過したが、この間さまざまな疑問が生じ、これらを解決するための研究が行われてきた。また、リボテストを代表するような新規迅速診断法が開発され、新規抗菌薬も使用可能となった。この様に診断法や治療法は今なお進歩しているが、新たな耐性菌や新興感染症が出現し、感染症診療が変貌しているのも事実である。したがって、ガイドラインは耐性菌の現況、新しい検査法や抗菌薬の開発ならびに医療経済などを考慮し、数年毎に改訂されている。その基本理念は「感染症の治療効果の向上や国民健康の増進に役立つこと」であるが、これに加え「菌の耐性化予防」や「医療資源の有効利用」が重要とされている。抗菌薬の不適切使用や乱用は耐性菌を出現させるため、抗菌力が強く、抗菌域の広い薬剤を安易に使用すべきではない。また投与方法の基本は十分量を短期間使用することで、体内動態と薬剤特性を考慮した投与法が推奨されている。現状に応じた呼吸器感染症診療を適切に行うため、これまで蓄積されたエビデンスをシステマティック・レビューならびにメタ解析し、現在ガイドラインの改定作業が行われている（2016年公表予定）。

わが国での呼吸器感染症治療における広義の病原体側キーワードは、細菌、非定型病原体、耐性菌、誤嚥と分類できる。本セミナーでは、これらを再考した治療方針を紹介し、会場の先生方からご意見ならびに改定すべき点をご教示頂ければ幸いです。